

「使徒信条」コイナー・ギリシア語訳

ト	シュンボロン	トーン	アポストローン
Τὸ	Σύμβολον	τῶν	Ἀποστόλων
	信仰告白		使徒たちの
主中単	主中単	属男複	属男複
ὁ		ὁ	ἀπόστολος

ピステウオー	エイス	セオン	パテラ	パントクラトラ
Πιστεύω	εἰς	θεὸν	πατέρα	παντοκράτορα,
私は信を置いている	～の中へ	神	父なる	全能者である
現能直 単	前	対男単	対男単	対男単
		θεός	πατήρ	παντοκράτωρ

ポイエーテーン	ウーラヌー	カイ	ゲース
ποιητὴν	οὐρανοῦ	καὶ	γῆς,
創造者	天の	～と	地の
対男単	属男単	接続詞	属女単
ποιητής	οὐρανός		γῆ

カイ	エイス	イエースーン	クリーストン
καὶ	εἰς	Ἰησοῦν	Χριστὸν,
また	～の中へ	イエス	キリスト
接続詞	前	対男単	対男単
		Ἰησοῦς	Χριστός

ヒュイオン	アウトウー	トン	モノゲネー	トン	キューリオン	ヘーモーン
υἶον	αὐτοῦ	τὸν	μονογενῆ,	τὸν	κύριον	ἡμῶν,
子	彼の		独自の		主	私たちの
対男単	属男単	対男単	形・対男単	対男単	対男単	属格
υἱός	αὐτός	ὁ	μονογενής	ὁ	κύριος	ἐγώ

ホス	シュネレーンフセー	エク	プネウマトス	ハギウー
ὅς	συνελήμφθη	ἐκ	πνεύματος	ἁγίου,
彼は	宿った	～によって	霊	聖なる
関・主男単	ア受直3単	前	奪中単	形・奪中単
	συλλαμβάνω		πνεῦμα	ἅγιος

エゲネーセー	エク	マリアース	テース	パルセヌー
ἐγεννήθη	ἐκ	Μαρίας	τῆς	παρθένου,
生まれた	～から	マリア		処女
ア受直3単	前	奪女単	奪女単	奪女単
γεννῶ (-άω)		Μαρία	ὁ	παρθένος

エパセン	ヒュポ	ポンティオン	ピラートン	エスタウローセー
ἐπαθεν	ὑπὸ	Πόντιον	Πιλᾶτον,	ἐσταυρώθη,
苦しみを受けた	～の下で	ポンティオ	ピラト	十字架につけられた
ア能直3単	前	対男単	対男単	ア受直3単
πάσχω		Πόντιος	Πιλᾶτος	σταυρῶ (-όω)

アベサネン	カイ	エタフェー	カテベー	エイス	ハーデー
ἀπέθανεν,	καὶ	ἐτάφη,	κατέβη	εἰς	ἄδην,
死んだ	そして	埋葬された	くだった	～へ	よみ
ア能直3単	接続詞	ア受直3単	ア能直3単	前	対男単
ἀποθνήσκω		θάπτω	καταβαίνω		ἄδης

テー	トリテー	ヘーメラー	アネステー	エク	ネクローン
τῇ	τρίτῃ	ἡμέρᾱ	ἀνέστη	ἐκ	νεκρῶν,
	第三の	日に	よみがえった	～の中から	死者たち
位女単	位女単	位女単	2 ア能直3単	前	形・奪男複
	ὁ	τρίτος	ἡμέρα	ἀνίστημι	νεκρός

アネベー	エイス	トゥース	ウーラヌース
ἀνέβη	εἰς	τοὺς	οὐρανοὺς,
のぼった	～へ		天
ア能直3単	前	対男複	対男複
ἀναβαίνω		ὁ	οὐρανός

カセータイ	エク デクシオン	セウー	パトロス	パントクラトロス
κάθηται	ἐκ δεξιῶν	θεοῦ	πατρός	παντοκράτορος,
すわっている	右側に	神の	父なる	全能者である
現能直 3 単	前 形・奪中複	属男単	属男単	属男単
κάθηναι	δεξιός	θεός	πατήρ	παντοκράτωρ

エケイセン	エルケタイ	クリーネイン
ἐκεῖθεν	ἔρχεται	κρίνειν
そこから	来ようとしている	さばくために
副	現中直 3 単	現能不
	ἔρχομαι	κρίνω

ゾーンタス	カイ	ネクルース
ζῶντας	καὶ	νεκρούς.
生きている者たちを	〜と	死んだ者たちを
現能分・対男複	接続詞	形・対男複
ζῶ (-άω)		νεκρός

ピステウオー	エイス	ト	プネウマ	ト	ハギオン
Πιστεύω	εἰς	τὸ	πνεῦμα	τὸ	ἅγιον,
私は信を置いている	〜の中へ		霊		聖なる
現能直 1 単	前	対中単	対中単	対中単	形・対中単
		ὁ		ὁ	ἅγιος

ハギアーン	エクレーシアーン	カソリケーン	ハギオーン	コイノーニアーン
ἁγίαν	ἐκκλησίαν	καθολικὴν,	ἁγίων	κοινωνίαν,
聖なる	教会を	普遍的な	聖徒たちの	交わりを
形・対女単	対女単	形・対女単	形・属男複	対女単
ἅγιος	ἐκκλησία	καθολικός	ἅγιος	κοινωνία

アフエシン	ハマルティオーン	ソーマトス	アナスタシン	ゾーエーン	アイオーニオン
ἄφεσιν	ἁμαρτιῶν,	σώματος	ἀνάστασιν,	ζωὴν	αἰώνιον.
赦しを	罪の	からだの	よみがえりを	いのちを	永遠の
対女単	属女複	属中単	対女単	対女単	形・対女単
ἄφεσις	ἁμαρτία	σῶμα	ἀνάστασις	ζωή	αἰώνιος

アメン

Ἀμήν.

アーメン

副

《 訳文 》

私は天と地の創造者，全能者である父なる神を信頼しています。

また，その独自の子，私たちの主，イエス・キリストを（信頼しています）。

この方は，聖霊によって宿り，処女マリアから生まれ，ポンティオ・ピラトの下で^{もと}苦し
みを受け，十字架につけられ，死んで葬られ，よみへ^{くだ}下り，3 日目に死者たちの中から
よみがえり，天へ^{のぼ}上り，全能者である父なる神の右側に^{すわ}座っておられ，生きている者た
ちと死んだ者たちとをさばくために，そこから来ようとしておられます。

私は聖霊を信頼しています。

聖なる普遍的教会，聖徒たちの交わり，罪の赦し，からだのよみがえり，永遠のいのちを
（私は信じています）。

アーメン。

《インターリニアの見方》

1 行目は、ギリシア語の発音のカタカナ表記です。古典ギリシア語の発音に基づいていますが、少しアレンジを加えています。

2 行目は、ラテン語の原文から、コイナー・ギリシア語に私が訳したものです。一つの翻訳例と考えていただければ幸いです。

3 行目は、2 行目のギリシア語の逐語訳です。

4 行目は、文法解析です。冠詞や名詞の場合、「主中単」は「主格・中性・単数」の略です。（格変化は、その機能の相違に着目して、主格、属格、奪格、与格、位格、具格、対格、呼格の 8 つに分類しました。）形容詞には「形」、関係代名詞には「関」を付けました。また、前置詞は「前」、副詞は「副」と書きました。動詞の場合、「現能直 1 単」は「現在・能動・直説法・1 人称・単数」の略、「ア受直 3 単」は「アオリスト・受動・直説法・3 人称・単数」の略です。分詞は「現能分・対男複」のように、不定詞は「現能不」のように書きました。

5 行目は、辞典の見出し語形です。辞典で調べるときの便宜を考えて、動詞は青色で、その他の品詞は茶色で示しました。

《参考文献》

- ・ Barbara and Kurt Aland, Johannes Karavidopoulos, Carlo M. Martini, Bruce Metzger: *Novum Testamentum Graece*, 28th Revised Edition, Stuttgart, 2012
- ・ 織田昭著『新約聖書のギリシア語文法』初版, 教友社, 2003 年
- ・ 織田昭編『新約聖書ギリシア語小辞典』教文館, 2002 年
- ・ 古川春風編著『ギリシャ語辞典』第 1 版, 大学書林, 1989 年

2026 年 7 月 15 日発行

著者 加藤裕